

1. 3D チェック(近傍)

新メニュー「チェック」・「3D チェック(近傍)」を追加しました。

「3D チェック」は、同一 XY 座標で複数の Z 値があるケースを想定していますが、この「3D チェック(近接)」では同一 XY 座標ではないものの、Z 値が大きく異なるケースの検出を行います。例えば、等高線が真幅道路の Z 値手前で切れていて、等高線の Z 値と真幅道路の Z が大きく異なる場合などです。

3Dチェック(近傍)

対象

等高線(7101-7108)

分類コードで指定

対象オプション

間断区分=1もチェックする

参照

等高線(7101-7108)以外

分類コードで指定

チェック

対象の端点と参照とのずれ

対象の端点と参照とのずれ

対象の端点と参照までの距離

対象の端点と参照までの標高差

対象

チェックする対象の面(E1)・線(E2)の分類コードを指定します。

参照

参照する面(E1)・線(E2)の分類コードを指定します。

対象の端点と参照とのずれ

等高線などの対象のポリラインの端点について、近くの要素(真幅道路など)上の最も近い位置の Z 値と比較します。指定した距離以下、かつ、標高差が指定した値より大きい場合をリストアップします。

表示項目と項目数	OK	(1)対象の端点と参照とのずれ sample1.dwg 分類コード=7102 間断区分=0 水平方向のずれ=0.169 標高差=1.637 (-110709.20, 91713.07, 382.36)
<input checked="" type="radio"/> すべて 18		(2)対象の端点と参照とのずれ sample1.dwg 分類コード=7102 間断区分=0 水平方向のずれ=0.431 標高差=1.169 (-110702.82, 91714.94, 384.83)
<input type="radio"/> OK以外 18		(3)対象の端点と参照とのずれ sample1.dwg 分類コード=7102 間断区分=0 水平方向のずれ=0.340 標高差=1.341 (-110698.96, 91712.27, 386.66)
<input type="radio"/> OKのみ 0		(4)対象の端点と参照とのずれ sample1.dwg 分類コード=7102 間断区分=0 水平方向のずれ=0.315 標高差=1.580 (-110710.14, 91714.50, 382.42)
OKリストCSV保存	全削除	(5)対象の端点と参照とのずれ sample1.dwg 分類コード=7102 間断区分=0 水平方向のずれ=0.101 標高差=1.587 (-110710.16, 91714.48, 382.41)
		(6)対象の端点と参照とのずれ sample1.dwg 分類コード=7102 間断区分=0 水平方向のずれ=0.101 標高差=1.313 (-110702.74, 91716.73, 384.69)
		(7)対象の端点と参照とのずれ sample1.dwg 分類コード=7102 間断区分=0 水平方向のずれ=0.103 標高差=1.843 (-110697.85, 91714.55, 386.16)
ガイド	レポート	チェックリスト1
		チェックリスト2
		確認リスト
		断面

2. TINからの標高差(面・線)

メニュー「TIN」に「TINからの標高差(面・線)」に「TINより上側の項目のみリストアップ」を追加しました。

TINからの標高差(面・線・点)
✕

チェック対象

全ての3次元要素(面線点)

道路橋(2203)以外の3次元要素(面線点)

等高線と基準点のみ

分類コードで指定 選択...

等高線の陰線(間断区分=1)は対象外

等高線の陰線(間断区分=9)は対象外

チェック内容

要素の点

要素の線分の中点

Z値の差 m以上を検出

リストアップ

全てリストアップ

TINより上側の項目のみをリストアップ ←

オプション

レポート出力

OK
キャンセル
設定を保存
設定を開く

TINより上側の項目のみリストアップ

リストアップする項目について、要素の点や中点が TIN より上側にある場合のみをリストアップします。例えば、「河川・水がい線」以外で TIN を作成し、このチェックをかけるものとします。「河川・水がい線」は他の地物より低い位置にあるはずなので、もし「河川・水がい線」が他の地物より高い位置にある場合をチェックできます。